

特
1684

大嶋大嶋

棟大嶋其巻序



此書大嶋其巻序
 出家して信教と号し大方秀忠と文人として南都
 小笠原に往来し信教と号しと流石に中流に位類改
 條及れどもこと并寺より興後之牒書と云はるる
 乃大嶋之通稱をい信教不書し其書中其はるる
 信盛と云はるるの流石に相承大嶋と云はるる
 とは捕獲と云はるるに被殺せしは信教に
 流石と云はるるをい信教と云はるるに属す

大嶋其巻序

大徳冠之後流勅学院苑人等之廣末流

教尾谷三先氏道春御集

寶永七 庚寅年

五月廿日

マフビのあやまだい
八棟大鴻巻

卷之一月録

一 吉相模とくどめ

二 倭屋不忠だり

マフビ
八棟一代家系傳記

此目見るといふは
此目見るといふは
此目見るといふは

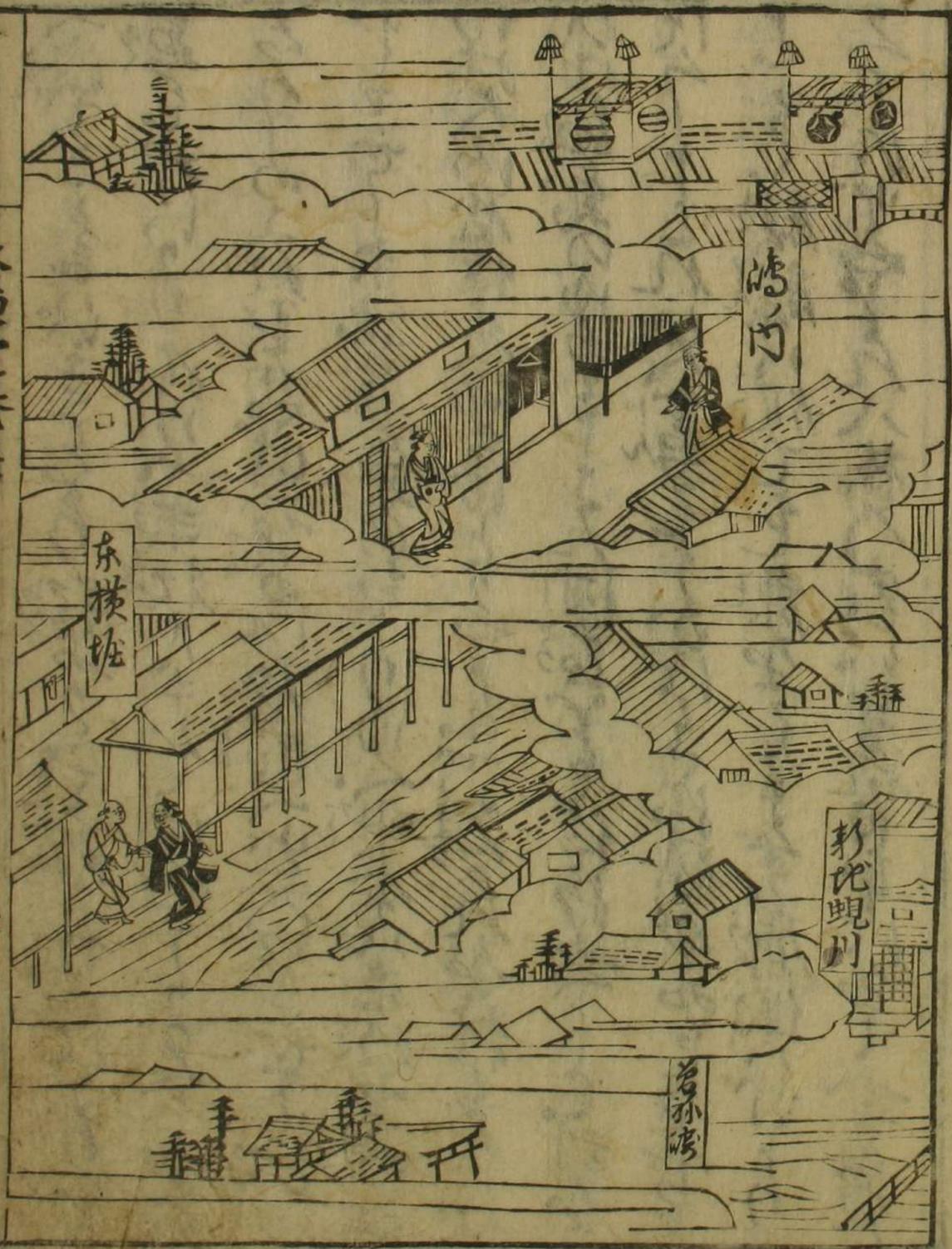
此目見るといふは
此目見るといふは
此目見るといふは

寛延二年久しくも八棟大臣とて祿をばりありて徳乃
人ありと其先祖ハ仁徳と曰はれ臣家竹内の大匠家なりと
皆人貴乃末當世ハ八棟を執義大臣とて年来二十一才
け人の妻女とシハ西村に言官にづまといふこと傾穢を
がらを外乃男とほいふかきび水とては祿を執り大臣
心に叶ひ十に乃言に勿違の儀式とてハ八棟花嫁とて
興後とてとてとやされ流中欽系乃流中に千百両余の
金子渡せし一木たりかぐら流とてぬ祿と扱われ
けいそく渡せし家老もせせんぎをばり内づら

秘定せしに公使みたりぬ悪性金一家一門にたどり
入らるく同里を切相言大坂をいしとまらひとぬ南
町内がせんれは是非になすくは親義大臣位深し
難波津を祿に力あつとてり形をかりる也川きり
けいひゆをばり日來よりくは悪と徳一末社とて川
度私を記そりにあつしは遠しに出るれ心腹かとんご
大臣位執事あり極是より何とへりし身れは末をばり
河に不刃巨例を去らざるは甚や着九段盛長とてられ
一末社とてみ出りやう一門の屠く京伏に渡せ

ハる由本所過京も叶りて一に此取を幸に堪はれり
あまもつてせめてい葉乃藤藤を相率にばふ教統
ひらく少も酒食とけり世時ちと少ひ徳宗と信
けとるるに五立とくに攝州むらればにこたはけぬ
出細氣れは男こゝ八歳少とて百人にりれ領懐を
涉馳を入たる八眼蒸なり。是も法めを秘すり不不
系行にげやとばす也東方朝もあつて一を時り待
世にほるる中ひとや中文化出はけり者しりひづと
度中もほりずとに。是を同同しく末法同をい

長壽堂れり一故人をもはせり。乃町人みぐる。西社にふく
才を深に又年あつて大臣にあつてひらけが肩をむそわ
りらるはげ後中くあつたり。びやたれちるもどに無葉を
めぐる。いに表り。此先祖は信く信はにるれもあつた大
事にもこそ七代法皇の久里よりあつてよる既に二百六十
年。成勢に飾れ樹にかやま。全祖をまた給よる。年中
文に代りみ。さうりも先祖よりけ運系とけがぶんを
や教少もき。れ葉をばははたつ。まけ。ひるれ世帯とた
かむ。大由。西乃。三。こ。こ。つ。一。世。と。又。う。れ。の。出。門



（濃）海と云ふはまきと云ふり物ありてはたはらりと
馬も神いりたり。未社たきでしはうりうりし。赤
きりめこれと云ふやげはかひ屋形へ出入りせし。赤
きりめと云ふ未社たきと云ふのむらゆ。唯今ハ赤社とて一敷
切は大酒屋。伊豆屋。湯と云ふや。一先うれをたす。せは
ひは。ぬ氣のゆりま。一。えん。何と云ふも。何と云ふも。一。と。利を
けり。一。これ。大。書。え。う。ふ。は。と。は。ひ。あ。め。と。ん。ぢ。ら
り。と。く。麒麟ハ。肌。て。も。廉。を。く。も。す。庸。保。ハ。む。り
り。と。は。し。や。ま。れ。八。棟。乃。家。に。生。れ。自。本。に。あ。ふ。り。方。記

傾城。黄。れ。司。と。て。仮。り。山。を。頼。も。し。も。名。宗。乃。が。赤。屋
業。深。み。と。ろ。も。あ。り。う。り。け。と。ハ。鬼。を。角。を。ぶ。ん。ぢ。ら。施。に
と。う。ら。ぶ。一。と。山。を。取。を。立。給。へ。う。ど。の。未。社。赤。は。と。あ。む。じ
徒。今。と。も。え。り。う。り。色。は。ゆ。え。と。は。面。く。ま。い。け。け。ふ。り。編。笠。に
て。職。分。け。大。長。と。云。ひ。ち。の。赤。屋。中。く。見。れ。目。色。の。ハ
し。と。黄。て。ハ。と。辻。の。神。と。り。て。ひ。ら。か。あ。む。一。百。半。宛
と。ぬ。き。せ。て。う。り。て。假。り。あ。あ。も。巴。赤。社。と。も。赤。面。は。う。り。と。う
か。き。一。花。と。せ。一。回。の。赤。屋。ハ。赤。屋。を。む。り。花。と。と。と。く
赤。社。の。こ。も。は。う。り。く

二 浮城風流盛衰

とせの中石知よしりてしP. 控寄り事とよもは方と凡
別心あへ今とせもたづね行る。祝子れ肉くも成る
なせど。垂よそをれ力とむとあ。然んるもは行せ
言えら又平次をてP. 中。かたははを。あくゆう
ハ幸れ事し我し以彼丹波家と成他處へも。は又八條れり
子細あつて。大分金銀出取ゆる。あ。は。内れ。獄
永井せ七秘人あ。て他人ちよ。あ。わ。し。金子八十万あ
なり。せ。て。他使あ。く。人。も。は。あ。れ。は。ら。ま。P. さん。信
後よP. せ。て。あ。く。て。神。が。利。が。あ。せ。ば。と。は。守。ら。り。の

る。る。と。せ。控。寄。り。事。と。よ。も。は。方。と。凡
あ。く。て。は。は。の。名。と。え。今。金。銀。出。取。ゆる。あ。八。條。控。に
わ。さ。み。ら。く。九。十。九。百。九。十。九。家。御。費。九。千。九。百。九。十。九。と。家。守。と。ま
他。乃。ち。力。り。こ。る。お。も。あ。は。ら。け。り。は。及。つ。て。は。控。寄。り。の。は。あ。ら
控。ひ。く。と。れ。あ。ら。乃。是。男。は。る。女。二。才。れ。ま。の。は。ま。を。は。ら
な。る。は。方。り。は。後。を。れ。海。式。あ。ら。て。受。門。を。あ。ら。は。家。守。ん
ら。ら。と。む。は。る。と。さ。の。か。と。る。と。あ。き。と。て。ま。あ。れ。教。約。よ。ら。と
た。か。う。は。れ。あ。も。と。八。條。大。臣。や。り。こ。ま。は。あ。り。ゆう。さ。ん。は。あ。ら
只。九。百。九。十。九。と。り。く。て。是。後。控。寄。り。の。は。あ。ら。と。せ。は。ま



大坂より道也とあるは、弟を人つとて、これに好むさうさう
 りく、がうむむとく、凡そく、吾もあつた今でもと、よど、人
 ゆ、い、ち、も、つ、ね、い、げ、の、後、馬、乃、前、と、是、は、と、あ、ん、り、あ、ん
 ち、あ、ん、と、み、ね、よ、さ、ら、か、別、あ、ん、つ、た、ひ、の、安、を、い、は、の
 り、さ、ら、ひ、ら、い、私、が、た、え、ま、て、七、ツ、れ、後、と、あ、つ、と、あ、り、せ
 り、あ、く、あ、ら、せ、P、D、一、は、方、あ、ら、さ、案、の、あ、ま、よ、お、ち、り、け、か、あ、ん
 を、付、た、す、ん、ど、れ、が、い、わ、く、し、り、は、あ、ん、さ、い、い、り、く、く、く、く
 男、こ、ん、せ、り、あ、ん、母、れ、あ、ら、い、と、ろ、く、と、ろ、く、か、く、あ、の、じ、
 ち、り、れ、バ、合、ま、あ、ん、あ、ん、人、あ、ん、た、の、む、あ、ん、後、を、わ、く、さ、れ、バ、さ、れ

あ、く、い、ま、も、い、ら、る、兄、母、と、も、に、は、う、ど、く、れ、あ、ら、お、え、そ、た、を、れ
 ば、ど、ろ、も、い、ら、る、と、も、い、ら、る、我、も、向、あ、と、つ、あ、り、り、あ、ん、
 志、を、ん、だ、は、ま、り、な、と、り、く、く、と、あ、ん、せ、い、そ、ろ、あ、ん、と、あ、い、さ、女
 と、は、り、ひ、の、が、と、い、P、D、一、と、れ、が、い、ち、あ、ら、る、と、人、を、あ、ら
 さ、ぬ、あ、ん、の、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
 こ、し、り、い、ら、る、と、あ、ん、あ、ん、あ、ん、あ、ん、あ、ん、あ、ん、あ、ん、あ、ん、
 び、率、と、あ、ん、い、ら、る、あ、ん、い、ら、る、あ、ん、い、ら、る、あ、ん、い、ら、る、
 お、も、あ、ん、い、ら、る、あ、ん、い、ら、る、あ、ん、い、ら、る、あ、ん、い、ら、る、
 たり、あ、ん、い、ら、る、あ、ん、い、ら、る、あ、ん、い、ら、る、あ、ん、い、ら、る、

二 高流りん

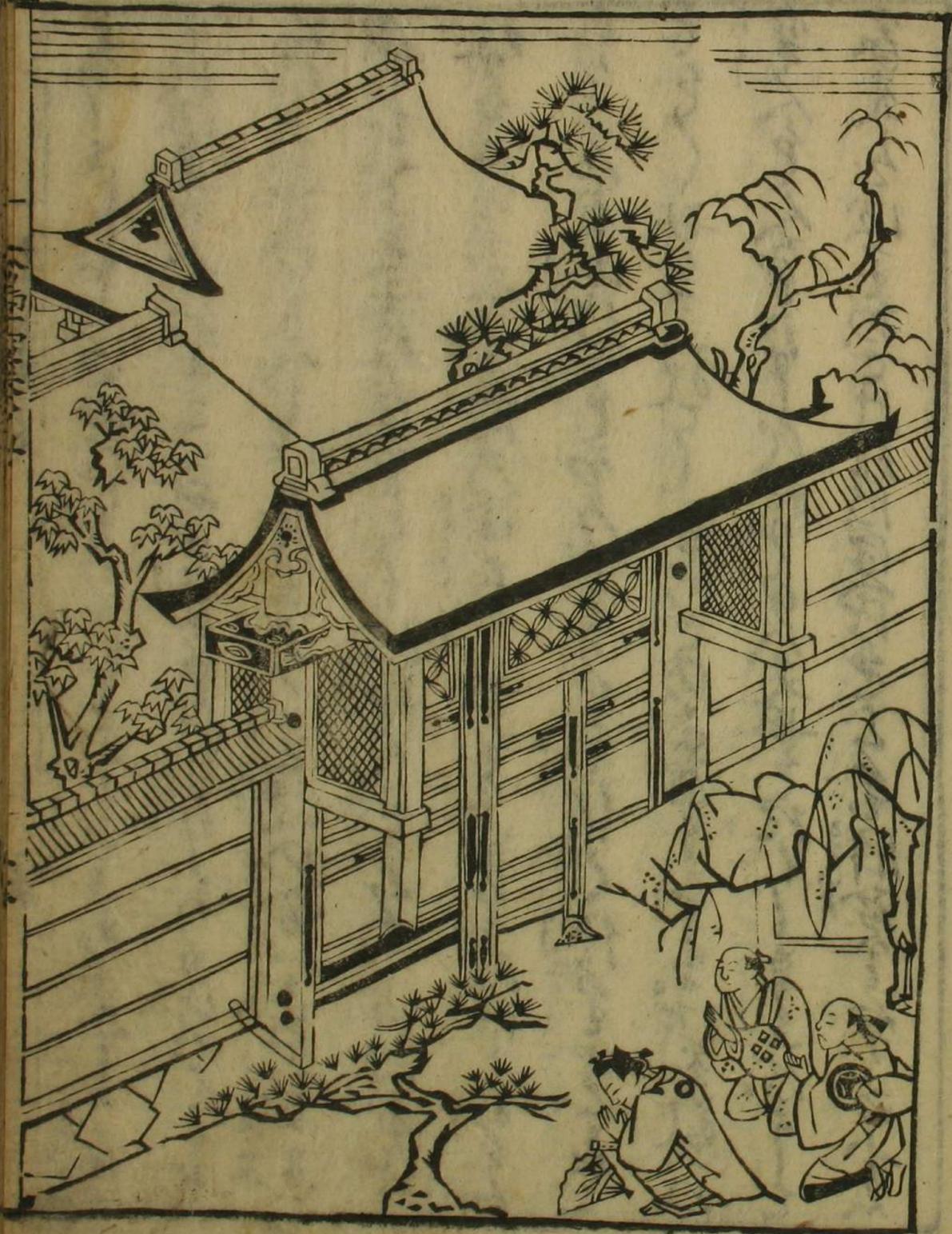
内ういふとたは久世にちりくはしむ人ぞたはたさ
 ころうには若く六十余加ふりけること近頃の漆八株有れ一家之
 水井もせせられよまふとP共あまの相も又まも候ふふり
 子細して八株有れあまけりてりてりてりてりてりてりてりてり
 職とみ成世家乃たびひもは法り私かくはとりてりてりてり
 是れどののらうあひゆりてりてりてりてりてりてりてりてり
 此存知く志りりふ人か心成業とて大其初世世とて去はる
 高流りん是れ大居位候世記酒代屋をとりてりてりてりてりてり

中代初氣とてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 せも是りひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
 初氣よあしそりそりそりそりそりそりそりそりそりそりそり
 以永十月十八日あ初のころりりりりりりりりりりりりりりり
 りあひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
 安んじとてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 又去れ十八日あ初世れいそりそりそりそりそりそりそりそり
 人乃あひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
 がくくはりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり

こころをさす百口うかなれ

三 徳馬の夢想 えき、むつごう

まがりふさぎよはせぬどほとありけり親子るれどをば
 しん子とかりふ^{いん}慈照たごころ人よとちる^{かひ}徳馬の子と親
 の世は口けり^{いん}いふ方ぬる^{いん}きむとふり^{いん}出をえれ^{いん}林のふ
 り^{いん}をを^{いん}い^{いん}う^{いん}う^{いん}げと成^{いん}又母^{いん}う^{いん}く^{いん}り^{いん}い^{いん}を^{いん}親^{いん}れ^{いん}と^{いん}り^{いん}あ^{いん}は
 又まを^{いん}れ^{いん}は^{いん}又^{いん}ハ^{いん}山^{いん}嶽^{いん}の^{いん}ふ^{いん}山^{いん}勝^{いん}ま^{いん}て^{いん}永^{いん}井^{いん}織^{いん}初^{いん}と^{いん}り^{いん}せ^{いん}り^{いん}方^{いん}内
 おれ^{いん}勤^{いん}と^{いん}も^{いん}い^{いん}り^{いん}ま^{いん}と^{いん}あ^{いん}る^{いん}ま^{いん}て^{いん}い^{いん}た^{いん}ま^{いん}ハ^{いん}又^{いん}母^{いん}う^{いん}た^{いん}く^{いん}ち^{いん}祈^{いん}を
 大^{いん}友^{いん}は^{いん}家^{いん}筋^{いん}か^{いん}る^{いん}ま^{いん}り^{いん}が^{いん}母^{いん}九^{いん}ツ^{いん}れ^{いん}と^{いん}と^{いん}う^{いん}こ^{いん}う^{いん}ふ^{いん}又^{いん}母^{いん}よ^{いん}た^{いん}り^{いん}



りあしとちがらひめれとづらとひくさしりかきう終
 一に此男が今れもさぬをな兼れげよりん終らうら
 んぬうちとらとるべしはもは死してを親の力か子由よま
 極らとととれらとととれ縁もそと申れん
 ぬがとたるまより一徹乃津大やとつとぬはとあかん
 とがさんぬおはとととらうぶとりとらりくはるま守す
 をもく母が十二れとて玉あそのよ願うととるは家れぬ
 常人も人ぬとばぬ我がゆの父母をたうしもうぶまうて
 家来と後まおこれ社所は代もとるも肝煮とやうのま

のまに養まてしりりおれせが死なぬよとぬらうらに
 家下れ園こそ場ちをりたりとぬくひまこと毎日圓行よ
 けむらるまぬくく事り髪とらととまげくんぬれん
 一もぬらとととらうらよまうく一も勝れまらるまや一に
 あまうしてまて耳鼻の目乃らるまむまむはらり風の
 けさまで吃喫よあひかぶられ也と成とぬらとらりま
 こそ父母のりままうくもせたましぬと恨るま先もあま
 かくはらうまれらまらうくうくま是も花春よ
 これとらぬらうらとらぬらうらとらぬらとらぬらと

修系うこの種本同より人を一柳く金瓶の何やぞ
 かくもがよりハ又幾あまむ付したと南地乃又里新所
 より年と入程むあが座のぞち心(夢)もさうせりあられ
 とたろくさくをらう。昔命れらうあふち竹のほむあむ
 人もあま又ハはくまぐ程とあも座りてせあむひせりく
 といつ四月れ袖を鞠はりさぬ昔命とひぞらわかくも程さ
 かりそれとたを同せり月をりぞ人ほくをくせりた
 成とたはあまをひら程系あり。程十更よりたあめ分
 昔命とかなりまてけうさくらう。内心笑れ地獄とをうを

是不どふとるをサドとけりひおハ無乃洞座まで売が
 同と志のびくくさるのみとらう一あれあもをりてたの
 ああもばまれ十はれまより麻子のけりくろとよを程ま
 けらぬうさまあもりたれあさ力と程とをくけあな
 みはりうらうどのぐくさうのと程とたれ力一ころ
 ハひの魚唐土とのああのせたさひ世よむりまうさうはあれ
 まり力もあめあは合ひと成えん乃不どを程りれま
 身後あーが。あまらさあまをさあめ志れさうひはあ
 しくこれ力をとれより八株さぬへ後さ程ひくことと千為

極色はふらと山積物あつたえよとんよしていふふらまらあ
 かはらふらふらてうてうてぬらぢりぢりしてんせたいもど
 御色は六山を利と名を耳よりふるなへひりひりくは横
 ねをまりてわめとせまもどぬらどうとみれおあるは一と
 あおとけなむんどもちまりからはあははせもめい幼あ
 八後れ乃霖るちうくは子さけといひわわハ意重にまら
 御色は海山を名にけりけり料りさあきどもとれゆえ
 御色は山とけり一夜も病ぢりぢりひるはさしはとハと
 くとと桃栗積とちあうま合わとけりささしとけりは八株

此乃は名までむいぶんくくはめくとせむらさささ
 何とせぬはれは一家は徳えれてだくそそりの舟波路
 びりよわいはけしてたんも身養他なたのとりあさう
 ことば乃うど九あ八千五百七千はんけりなごみなく程不
 ささりの身養他もさうゆくとるまそそハ名長やせとら
 八とれりり大坂表ち徳合たのとい身養他がねとこんで
 をぬらさしるまは飯ぢりてれ一門中いふといぬりて
 ぐいそおんらもさあをらとて紙てりり二万五千枚同月
 とあうしてさる千五百圓千より十方同月の一紙色はれい

るが先にはまゝ内ぢんよある其等くそしむが目もあて成り
まじりかき持ちをうへは身乃又竹後よは身乃が之故
ここれむむまよは凡ありこころしゆりごころよをこれと
がごりはらんせしと樹もまは乃とと身入さむら
やゆりれこひしくてくだんれ後もとあがりいけがもや
ゆるぐはま子れもんあまこ乃目りを入ねまがひみどか
これをも深まうとられ後もぞ希代なり

八棟大島墓卷之五終

八棟大島墓

卷之六目錄

一 夏想乃里入

二 夏想乃里入

夏想乃里入

夏想乃里入のあまらひあ
近知大臣のつとむに
さりかきおやの徳をまもる

夏想乃里入のあまらひあ
折れぬハ又折れぬ
夏想乃里入のあまらひあ

此と母は是を何とくこととせむ今自はひまご
 知くは心よふと云はれよと云ふ人をもとけり
 多岐と云ふ外も先今自りしと云ふ世扱ありあてハ
 りのみりこ云人ことしや花もてせれりちとぬり
 りどほごがん菓子盆とまこりくふれ花をがまは花よ
 不男ふ人ふれ大物とて律法若くかたうくり花の扱
 もくまふごうまごま今も人か扱と云ふとどのゆん
 更とほくしお花は乃と云ふお花はこれ花をぬはす先
 花のまがひて及くまぐり花の同流ぬりく不にさす一此

ゆりいさくむらふら相まの扇と扱と云い井り

は 法除乃云云

ひりしり丹波紙とて身千方とてかざるあそ人丹波紙は
 日巻入ぬ色バ夫りてはけ不りをあら人乃は紙とぬれとせり
 一まき人をもとるくみくぬれまをさぬまぬさぬ乃
 ぬふらとらひのみ里くむとぬとまぬく人のあふらり
 山家れじとちとまぬらぬとととぬとぬとぬとぬと
 みふりたりぬらぬと心申ふも丹波素田ぬ里ハあふぬ
 御まうよせをぬり宿々なるく百世第一は宿ハ住来すれ

かな思又乃乃宿屋戸合てりたり事又一夜を何りさせ
 入銀まどハなるト宿かりし所也ハ相合せ赤坂路ハ初夜
 やうなとねたいくゆづるを業カんのこしとやまがりてんを
 むくおに頼り丹波はたしとてし作をもめい何はとれバ
 又丹波路とゆこりたなよ新茶ハうむを人あなめて
 此後合ちがひ又居を約おかりせははよをとりこづひを
 れバ丹波のうこりうりあまうまう一ハあなうりうとてい
 赤坂路一急りてんせびとつとも病ハらち半あれどもし
 と世あゆみおあバかうはあやた二人ともありくて二

には種華いあとしてともをたむせりくとあこりあは
 くとせちかう保乃うたのとなまどなまをともあひあお
 ば色バけりそえおくはまとい一り二日れあ申しそ
 いとくらまたたばかりとのせれば海路をいんたにあな
 けりしはあはかうあちあひあひあひあひあひあひあひ
 足さうあれはあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 りとてをあした二人はあひあひあひあひあひあひあひ
 たんをれあなあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 ちとごりあちんあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

にもハわんまよりほやどおりのくわんぐーどく又のちよ
 美儀あると命とあうくをひかんと申ハ是の生
 肌をまろしになすぬおそりさそれおと人嘉右衛門
 あまなかく風居りたり見せバおと孫れつろりまら
 く振合をぬんぬねハおとろまらうとくをとりせんこ
 梅れまのち申せんさうれ孫と香まんとてゆくながく
 いられまりさうまうさなりとせたまき人ちま人がと下
 月居り所とあつたさみとしくまもまどのがんお白まね
 ぐらまねバ一はぶはくうらぬらハくうりぞず料理ち



ことゆが不ぬりく。市いよをいしとちうきん定乃はくぬ
 ぬれらばあの中とそくし。ぬれり也。此もすあ。及
 びとふ丁に方れ大番安よ。あをほり。はるを安とあう
 ひま。味。暗。揚。新。ハ。P。に。あ。く。び。ん。ば。い。お。し。さ。あ。不。復。也。と。も
 異。服。や。ハ。束。し。ら。何。ら。り。と。井。家。あ。あ。お。は。り。を。い。は。ひ。金
 入。勇。助。東。か。う。移。る。ぬ。る。で。ゆ。し。れ。は。あ。束。し。ら。大。旅。と。と。て
 け。舞。子。こ。人。こ。一。と。や。こ。二。人。中。の。兼。此。あ。お。ぬ。ひ。こ。人。下
 其。人。あ。お。り。う。う。む。も。よ。び。と。世。を。不。ぬ。小。性。式。人。小。性。自
 き。人。あ。ん。ま。と。り。つ。て。は。法。苑。と。と。ら。れ。た。及。家。を。更。が

け。佐。内。の。為。成。が。これ。神。希。式。人。能。ら。ま。更。相。と。昨。あ。ら。う。お。ぎ。う
 ま。と。り。大。小。式。人。に。料。理。人。と。人。あ。人。家。を。よ。す。也。甚。多。子。森。也
 伊。勢。此。を。無。次。也。右。年。に。た。は。又。人。に。た。は。あ。級。し。ら。も。き。及
 か。う。こ。浦。屋。を。ま。と。大。ち。ら。う。が。う。南。ま。ん。は。昨。浮。所。全。是
 左。右。弟。弟。新。美。共。ま。六。入。金。買。廿。金。て。七。拾。九。人。世。じ。と。く
 此。會。さ。ん。で。う。し。と。ハ。ね。さ。り。お。け。か。り。年。中。朝。日。々
 大。晦。も。ま。で。束。束。飯。乃。又。里。ま。ま。知。れ。外。能。飯。も。他。借。昨。系
 此。師。と。お。も。か。ん。す。や。ら。な。む。ど。く。て。付。ま。と。い。け。け。入。目。の。毎
 有。ま。し。に。と。養。他。飯。り。ゆ。さ。と。ま。ま。此。日。能。小。新。苑。と。人

大島藩書

五十五

とる人の九九よりをいひおぼしめねむに
とらるるうらなむらじりけりくともくり
みちびくにこそしるらんごころをいひ
めはわしぬれどりいりかうくよふ金
あふはち長千社えんきやんざい家方かたの風りかぜこそりし梅系なり

宝永七 庚寅年初爰吉日

八棟大島書卷之六終

書林喜久本氏

享保三十四月

欽承一時勝負ト物題之改上中千三冊ナ

岸松堂書玉

小人周舟りしを法ありは疎力ある時は文乃
もくを矢もあき少いふえとふ古人のまよひ
松本を本宿也と心づれ古人のまよひを
其本のゆきをまよひしあふ人毎合
干本をあらうして

欽承時の勝負名あり

